



KYOTO NATIONAL MUSEUM

2015 April to June vol.186

京都国立博物館
だより

二〇一五年
四・五・六月号

特別展覧会

桃山時代の狩野派
永徳の後継者たち

特集陳列

葵祭の美術

―千年の伝統―

特集陳列

日本の仮面

―人と神仏、鬼の多彩な表情―

3F-1 陶磁

【中国陶磁】

3月17日(火)～9月6日(日)

中国陶磁はその高い技術力により、世界の陶磁器に大きな影響を与え、その類い稀な造形美は魅力にあふれ、世界中から高い評価を得ています。日本においては、奈良時代頃に唐三彩や越州窯系の青磁が中国からもたらされたことにより、形や釉薬、制作技法など、日本の陶磁生産に大きな影響を与えました。また、宋時代の青磁などは「唐物」として愛好され、その造形を写したものが作られるなど、日本人の生活の中に大いに取り入れられた、やきものの魅力をお楽しみください。



重要美術品 唐三彩馬俑 京都国立博物館

3F-2 考古

【京滋の考古遺物】

4月21日(火)～6月28日(日)

京都府と滋賀県から発見された考古遺物の名品を紹介いたします。京都市左京区上高野で発見された「小野毛人墓誌」は日本の古代墓誌を代表する遺物です。また、大津市滋賀里町の崇福寺塔跡から出土した「舍利容器」一式は、古代の舍利容器の代表とされます。さらに比叡山横川の如法堂跡から出土した「金銀鍍宝相華文経箱」は上東門院彰子の奉納品であり、平安時代の優美な金工作品として知られています。この三件はいずれも国宝に指定されています。

2F-1 絵巻

【神仏の霊験】

4月14日(火)～5月10日(日)

【ふたつの親鸞聖人絵伝】

5月12日(火)～6月7日(日)

◆京狩野の祖・山楽
もとは浅井家家臣の子。のちに父が豊臣家に仕えた関係から、秀吉の推挙で永徳の弟子となった。豊臣家滅亡後は徳川幕府から追われたが、松花堂昭乗らの取りなしにより事なきを得たという。京都を地盤に活動した京狩野の祖としても名高い。



唐獅子図屏風 部分 山楽筆 本法寺

◆光信亡き後の大黒柱・孝信
永徳の次男。宮廷絵所預として活躍し、兄・光信の没後は幼い兄の子・貞信の後見役となつて狩野派を支えた。のちに江戸狩野の中枢をなす探幽・尚信・安信を育てたことでも有名。



重要文化財 豊臣秀吉像 光信筆
宇和島伊達文化保存会 (4/7～4/26 展示)

◆永徳の後継者・光信
永徳の長男。父の急逝に伴い、若くして狩野派の棟梁となった。永徳風の画面も手掛けたが、むしろその真骨頂は大和絵の風情を湛えた繊細優美な画面にある。豊臣秀頼の命で描いた「四季花木図襖」はその典型作。

◆永徳の影武者・宗秀
永徳より八歳年下の弟。兄譲りの豪快な画風をもって、その影武者的な役割を果たした。永徳が織田信長の命で安土に赴く際、その後を託されるなど、信頼度は抜群に高かった。



扇面画帖のうち 宗秀筆

◆豊臣家の御用絵師・内膳
摂津の武将・荒木村重の家臣の子。永徳の父・松栄に画を学び、のち豊臣秀吉・秀頼父子の信任を得て御用絵師を務めた。岩佐又兵衛の師とも伝えられる。「豊国祭礼図屏風」は秀吉七回忌臨時大祭の様子を秀頼の命で描いたもの。方広寺大仏殿の前で繰り広げられる大群舞は庄巻であり、観る者をとらえてやまない。



重要文化財 四季花木図襖 光信筆 園城寺

特別展覧会

桃山時代の狩野派

永徳の後継者たち

平成27年4月7日(火)～5月17日(日)



国宝 花下遊楽図屏風 左隻 長信筆 東京国立博物館 (4/28～5/17 展示)

◆初めて徳川幕府に仕えた

狩野派絵師・長信

永徳より三十四歳も年下の弟。早くから徳川幕府の御用絵師となり、探幽ら三兄弟の江戸移住にあたっては、派内の長老格として尽力した。切手の図案にもなった右図は、長信の名を世に知らしめる名品。風流踊りに興じる男装の麗人たちの姿がいきいきと捉えられている。

◆若くして没した

悲運の狩野宗家・貞信

光信の長男。父光信の急逝にともない、叔父・孝信を後見役として十二歳にして宗家の地位についた。元和五年(一六一九)、二十三歳の時には女御御所の障壁画制作を主導したが、元和九年(一六二三)に二十七歳という若さで病死した。



重要文化財 住吉社頭図壁貼付 貞信筆 京都国立博物館



唐人物図屏風 甚之丞筆 仁和寺



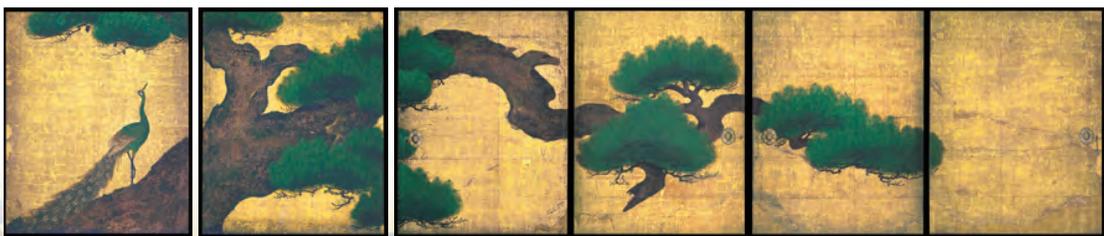
南蛮屏風

◆主要な画事すべてに参画、影の実力者・甚之丞

宗秀の子。光信の死後本格的に活動を始め、慶長十八年(一六一三)の後水尾天皇の御所障壁画制作をはじめ、翌年の名古屋城障壁画制作、元和五年(一六一九)の女御御所の障壁画制作などの主要な画事には必ず参加した。しかし貞信の死後は、探幽が一門の実権を握るようになり、甚之丞はその後塵を拝することになった。

◆早熟の天才・探幽

孝信の長男。十一歳で徳川家康・秀忠父子に拝謁し、十三歳の時には秀忠の前で絵を描き「永徳の再来」と評されたという。二十代には早くも狩野派の頂点に君臨した。下図は、徳川家光が改修した二条城二の丸御殿の障壁画。超ど級のスケールを誇る一方、料を意識した構成は江戸時代の到来を示す。この時、探幽二十五歳。



重要文化財 松に孔雀図壁貼付・襖 探幽筆 元離宮二条城事務所



牡丹図襖 孝信筆 仁和寺



派に挑戦状をたたきつけた一人の絵師がいました。長谷川等伯(一五三九〜一六一〇)です。能登国七尾に生まれた等伯は、三十歳を過ぎてから上洛すると徐々にその支持基盤を固め、狩野派の独壇場を脅かす存在にまで成長しました。若き日は細密描写を得意とし、やがてダイナミックな画風へと移行した永徳。はじめ絵仏師として活動し、一時は狩野派に学んだともいわれる等伯。まさに永遠のライバルといふべき二人の競演をご覧ください。



花鳥図押絵貼屏風のうち 狩野永徳筆

- 【曾我蕭白―醜美と優美―】
5月12日(火)〜6月7日(日)
- 【大陸からの新風―南蘋風と洋風画―】
6月9日(火)〜7月5日(日)
- 2F-5 中国絵画
- 【明清の山水画】
4月14日(火)〜5月10日(日)
- 【明末清初の絵画】
5月12日(火)〜6月7日(日)
- 【明清の人物画】
6月9日(火)〜7月5日(日)
- 1F-1 彫刻
- 【日本とアジア彫刻の名品】
- 【護法神】
3月31日(火)〜6月28日(日)
- 1F-2 特別展示室
- 【葵祭の美術―千年の伝統―】
4月21日(火)〜5月31日(日)
- 【日本の仮面―人と神仏、鬼の多彩な表情―】
6月9日(火)〜7月20日(月・祝)
- 1F-3 書跡
- 【天下統一への道】
3月31日(火)〜5月10日(日)
- 【宸翰―天皇の書―】

葵祭の美術

— 千年の伝統 —

4月21日(火)～5月31日(日)

〔平成知新館(1F-2)〕

葵祭は、正式には賀茂祭と言われ、五月十五日に行われる賀茂御祖神社(下鴨神社)と賀茂別雷神社(上賀茂神社)の例祭を指します。

葵祭は、祇園祭・時代祭と並んで京都三大祭と称されますが、その中でも最も古く、平安時代では「祭」と言えば葵祭を指したほどでした。清少納言『枕草子』にも「四月、祭りのころいとをかし」とあるように、都人士の浮かれた様を今日に伝えています。

また、格式も最も高く、平安時代には宮中から勅使が派遣される勅祭となりました。現在では石清水祭、春日祭と並んで三勅祭と言われ、平安時代の古式を今日に伝えています。

身分の上下を問わず、古くから愛されてきたこの葵祭は、日本の文学や美術に限りないインスピレーションを与えてきた存在です。最も有名なものとしては、紫式部『源氏物語』葵の巻があります。ここでは、光源氏から失われていく愛に懊悩する六条御息所が、牛車(ぎしや)でひっそり賀茂祭の行列見物に行つたところ、後から来た源氏の正妻である葵の上の一行と場所を巡ってトラブルになり、屈辱に塗れた怨恨からはからずも生霊となり葵の上を取り殺してしまうという人間の業を描き出しています。この車争いの場面は、賀茂祭のもう一つの目玉行事である競馬(くらべうま)とともに、絵画の主題としても好まれました。

本展では、昔の人が心待ちにした葵祭の姿を様々な作品から偲び、意外と知られていない葵祭の長い歴史に光をあてます。

(大原嘉豊)



車争図屏風 右隻 仁和寺

日本の仮面

— 人と神仏、鬼の多彩な表情 —

6月9日(火)～7月20日(月・祝)

〔平成知新館(1F-2)〕

飛鳥・奈良時代に伎楽面が作られて以降、平安時代には舞楽面、行道面が各地の神社で作られ、これに南北朝時代ころから能狂言面が加わり、日本の仮面は多彩な展開を見せました。しかしなぜか京都には古い舞楽面がありません。今回の展示では京都府下に伝来した行道面、能狂言面を中心に展示します。

京都・東寺に伝来した十二天面は平安時代十世紀の作。柔和な顔の梵天、怒った顔の多聞天、年老いた顔の風天などがあります。怒りの表情も少しも恐ろしさはなく、静かです。そして立体感に富み、素朴さが残る点にこの時代の特色があらわれています。

東寺の阿闍梨が乗る輿を八部衆の面をかぶつた人々が持ち、その外側を左右六人ずつ十二天面を着けた人々が随つて歩いて、法会を盛り上げたのです。このうち十二天面七面と八部衆面四面を展示します。

平安時代後期、阿弥陀の住む極楽に往生することを望む信仰が盛んになり、阿弥陀仏の像とともに二十五菩薩の仮面を着けた人々が練り歩く来迎会も行われるようになりました。追儺会では鬼を毘沙門天が追い払う所作が行なわれました。こうした仮面を使った行事は人々の楽しみでもあったのでしょうか。

能狂言面は能楽のシテ方宗家、大名家、社寺などに伝来しています。室町時代に世阿弥が大成した

能は、桃山時代に豊臣秀吉が熱狂してから広く武家の間で流行しました。丹後の

浦嶋神社の面は肥後に転ずる前の細川家が関与している可能性があります。さまざまな表情の仮面をお楽しみください。(浅見龍介)

重要文化財
十二天面のうち梵天
京都国立博物館



5月12日(火)～6月14日(日)

【故人を偲ぶ—消息経—】

6月16日(火)～7月20日(月・祝)

1F-4 染織

【絞り染】

3月25日(水)～4月26日(日)

【婚礼衣装】

4月29日(水)～6月7日(日)

【夏のきもの—単衣と帷子—】

6月10日(水)～7月20日(月・祝)

蒸し暑い日本の夏をしのぐために、古来人々は夏の着衣に工夫をこらしてきました。初夏から盛夏やがて初秋へ、移ろいゆく気候に依じて衣を替え、その季節ならではの装いを楽しんだのです。夏のきものといえば、単衣と帷子。いずれも、裏地を付けない単仕立ての衣料で、初夏と初秋に着用する絹地を単衣、盛夏に着用する麻地を帷子と称します。涼を得るために、色や文様にも工夫を凝らした夏のきものに、時節を楽しむ日本人の姿をご覧ください。



帆に杜若文様帷子 京都国立博物館

1F-5 金工

【慶長新刀—桃山時代の気風—】

3月31日(火)～5月24日(日)

【室町時代の金工】

5月26日(火)～7月20日(月・祝)

1F-6 漆工

【化粧道具】

2月24日(火)～4月19日(日)

【文房具】

4月21日(火)～5月31日(日)

【中国と琉球の漆芸】

6月2日(火)～7月20日(月・祝)

特別展観
第一〇〇回大蔵会記念

仏法東漸— 仏教の典籍と美術 —

7月29日(水)～9月6日(日) 平成知新館(1F-1-6)

「大蔵会」は、仏教にかんする典籍を中心とした伝統ある展観事業で、その主体となる京都仏教各宗学校連合会には、現在、大学を中心に十六校が加盟しています。大正四年(一九一五)、大正天皇の即位式を記念して始まって以来、毎年開催され、今年は一〇〇回目という大きな節目を迎えることになりました。これを記念して、平成知新館の特別展示室・書跡展示室のほか、染織・金工・漆工の各展示室を会場に大規模な展観を開催いたします。

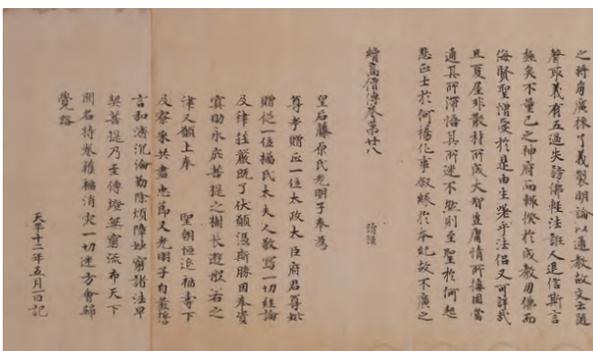
構成は大きく二つに分けられ、第一部は「大蔵会」という名称の由来にもなる、仏教経典の総集である「大蔵経(一切経)」についての展示です。大蔵経の書写は、莫大な材料、時間と人員を必要する一大事業です。にもかかわらず、日本では奈良時代以降、相当な数が作られ、あるいは海外からもたらされました。まさしく、仏の教えがインドから中国、朝鮮半島を経て日本に伝わり、重んじられたこと、すなわち「仏法東漸」の証といえるでしょう。ここでは、わが国屈指の古写経コレクションとして有名な「守屋コレクション」を中心に、その流れを紹介いたします。第二部は、日本に伝えられた仏の教えがどのような広がりをもったのか、なかでも仏教各宗派の宗祖についての展示です。さきの十六校の性格にかんがみ、真言宗・天台宗・浄土宗・浄土真宗・臨済宗を中心に、各宗派の宗祖に関連する書跡のみならず、絵画や工芸品もあわせて紹介し、その足跡をたどりまします。

日本仏教の歴史を通史的、かつ立体的に見ることのできるまたとない機会となりますので、是非とも多くの方にご覧いただきたく思います。

(羽田 聡)



重要美術品 金銅五鈷鈴 京都国立博物館



重要文化財 続高僧伝巻第二十八(五月一日経) 京都国立博物館(守屋コレクション)

よみもの

京都文化を支える人々

京都国立博物館列品管理室長 浅見龍介

暮れにテレビで京都を舞台にしたドラマを見た。全体を通して登場する人物と、ある人物の一齣を描いた短編が連なる形だった。その中で、洗い屋と呼ばれる職業の父と子の葛藤を描いた一編が印象に残った。洗い屋というのは、年を経た建物や箆筒などについた汚れを落とし、寿命を延ばす仕事である。私はこんな仕事があることを知らなかった。さてその洗い屋には大学卒業を間近に控えた息子がいて、東京で就職することを希望しながらも、後ろめたさを感じていた。洗い屋を家業にして来た家に生まれながら、その職を継がないことに。ところが、父親に申し訳ないと言うより、京都に対して申し訳ないという気持ちだと彼は恋人に語る。出版社に勤めたいという夢と、関東に帰る恋人の誘いの二つを足しても、京都への思いを凌駕することはなく、結局はその職を継ぐ決心をした。京都の伝統を支える人にはそんな重圧があることを初めて知った。

昨年四月に京都に引越してきて、京都の文化を味わい尽くしたいと思ったものの、葵祭、祇園祭の籤改めの日が会議日と重なって今年に持ち越した。そんな中で、京都らしさを感じたのは、私の家のすぐ近くにある洋菓子店である。京都の北にあって、市内在住の人ならまだしも旅行者には訪れにくい店である。そして営業日は土、日、月曜日のみ。固定メニューはなく、毎週水曜日にどんなケーキを販売するかホームページで発表される。休業日は休んでいるわけではなく、旬の果実などの材料を厳選して仕入れ、準備しているらしい。店はこのじままりしていて、ケースにたくさんは並んでいない。わずか三組が座れる店内で食べる客には出来立てのケーキが運ばれる。

その味は鮮烈である。旬の果実はそのまま食べるのが一番と思われるかもしれないが、凝縮し、他の素材と組み合わせることで味わいがより際立つということがあることを教えてくれる。そして食感。木の実を用いたものなどは、食感が面白く、食べるのが楽しい。恐らく、デザートなどから出店の要請もあるだろう。しかし、それを受けたら出来立てを供することはできず、鮮烈さは失われるだろう。そして一人で作る、というわけには行かなくなる。要するに何よりも自分のできる限りの最善を尽くし、最高のものを食べてもらいたいという思いが感じられる。

もちろん、安全で美味しいものを低価格で提供するため、工場で作れるようにして、たくさんの人々を喜ばせたいという考え方も素晴らしい。いろいろ考えた方があっていい。しかし、質にこだわって、小さな店でひっそり続けるという店は貴重である。ぜひ大事にしたい。たぶん店主の努力だけでなく、京都の人々の思いがこうした店を守っているのではないか。



国宝 風神雷神図屏風 俵屋宗達筆 建仁寺

特別展覧会 琳派誕生四〇〇年記念 琳派——京を彩る

みやこ

10月10日(土)～11月23日(月・祝)

平成知新館

琳派——この美しい響きを持つ言葉をご存知でしょうか。琳派とは、江戸時代に現れた装飾的な作風を特色とする芸術家の一団を、ゆるやかにつなぐ言葉です。

その豊かな源は、元和元年（一六一五）、洛北・鷹峯の地に求められます。この年、刀剣の手入れや鑑定を生業とする家に生まれ、書をはじめ様々な芸術に関与した本阿弥光悦は、徳川家康よりこの地を拝領し、信仰をともしにする親類縁者らを集め、光悦村を営みました。

琳派の誕生です。

京都で生まれ育った光悦が、絵師・俵屋宗達らとともに打ち立てたのは、王城の地で醸成されてきた文化に時代の風を織り込み、身のまわりを豊かに彩るための芸術でした。和歌巻、色紙、硯箱、茶碗、謡本にまで及ぶその美意識は、時を隔て、同じく京都人である尾形光琳、その弟である尾形乾山へと継承されます。そして再び熟成の期間を置き、今度は江戸において、酒井抱一を代表とする江戸琳派へと転生を遂げるのです。

本展は、琳派誕生四百年を記念し、その誕生の地である京都において初めて開催される特別展です。琳派の系譜に連なる芸術家は、私淑という形で先達から多くを学び、独自の芸術性を開花させました。おのおのの洗練された美意識、純日本的で評される装飾美を心ゆくまでご堪能ください。

(山川 曉)



国宝 蓮池水禽図 俵屋宗達筆 京都国立博物館



竹虎図 尾形光琳筆 京都国立博物館



色絵氷裂文角皿 初代尾形乾山作 京都国立博物館



重要文化財 鶴下絵三十六歌仙和歌巻 部分 本阿弥光悦書・俵屋宗達画 京都国立博物館

土曜講座

- 4月 4日「あこがれのコスメグッズ―蒔絵の化粧道具―」
京都国立博物館主任研究員 永島明子
- 4月18日「生き残るか滅びるか、狩野派絵師の華麗なる戦い」*
京都国立博物館上席研究員 山本英男
- 4月25日「新発見の狩野孝信筆「北野社頭遊楽図屏風」を中心に」*
同志社大学教授 狩野博幸氏
- 5月 2日「桃山時代の異国趣味」*
京都国立博物館研究員 福士雄也
- 5月 9日「早熟の天才、狩野探幽登場」*
成安造形大学教授 小峯善通氏
- 5月16日「葵祭の美術」**
京都国立博物館主任研究員 大原嘉豊
- 5月23日「博物館のなかで文化財をまもる―文化財と学ぶ自然科学―」
京都国立博物館研究員 池田素子
- 5月30日「よろこびをまとう―日本の花嫁衣裳―」
京都国立博物館教育室長 山川 暁
- 6月 6日「高僧伝絵の時代」
京都国立博物館研究員 井並林太郎
- 6月13日「国宝 小野毛人墓誌をめぐって」
京都国立博物館企画室長 宮川禎一
- 6月20日「京都周辺の古面」***
京都国立博物館列品管理室長 浅見龍介
- *…「桃山時代の狩野派」関連講座 **…「葵祭の美術」関連講座
***…「日本の仮面」関連講座
- ※平成知新館 講堂にて、午後1時30分～3時に開催。定員200名、聴講無料（ただし観覧券等が必要）。
※当日12時より、平成知新館1階にて整理券を配布します。先着順、定員になり次第、配布を終了します。

講座・イベント

《「桃山時代の狩野派」記念座談会》

「日本美術応援団、桃山時代の狩野派を応援する!!」

日 時 4月11日(土) 午後1時30分～3時

会 場 平成知新館 講堂(地下1階)

登壇者 山下裕二(明治学院大学教授・日本美術応援団団長)、井浦 新(俳優・京都国立博物館文化大使・日本美術応援団員3号)、山本英男(京都国立博物館学芸部上席研究員)

※参加方法: 当日12時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布します。定員(200名)になり次第、配布を終了します。聴講無料(ただし、「桃山時代の狩野派」展の観覧券が必要)。

《平成27年度夏期講座のお知らせ》

テーマ 古社寺と文化財Ⅲ

開講日 7月29日(水)・30日(木)・31日(金)

会 場 平成知新館 講堂 定員:200名

聴講料 3000円

※申込方法: 往復はがきに住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、京都国立博物館「夏期講座」係(〒605-0931 京都市東山区茶屋町 527)までお申し込みください。申込期間は6月1日～10日です。
*5月31日以前の申込は無効となります。申込人数が定員を超えた場合は抽選とさせていただきます。

《京都・らくご博物館 春》

日 時 5月1日(金) 午後6時30分開演

会 場 平成知新館 講堂(地下1階)

出演 桂優々 桂吉の丞 桂ざこば 中入 桂米平 桂春若

入場料 3100円(全席指定・平成知新館 名品ギャラリー観覧券付)

※チケットご希望の方はお電話、またはWEBよりお申し込みください。

申し込み先: お電話/博物館事業推進係 075-531-7504(月～金の10～12時・13～17時に受付 *祝日は除く) WEB/ <http://www.kyohaku.go.jp> らくご博物館【春】申し込み画面

これからの展覧会

- ◆特別展観 第100回大蔵会記念 仏法東漸―仏教の典籍と美術―
2015年7月29日(水)～9月6日(日)
- ◆特別展覧会 琳派誕生400年記念 琳派 京を彩る
2015年10月10日(土)～11月23日(月・祝)

国立博物館の展覧会

【東京国立博物館】

特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」
2015年4月28日(火)～6月7日(日)

【奈良国立博物館】

特別展「平安古経展」
2015年4月7日(火)～5月17日(日)

【九州国立博物館】

開館10周年記念特別展
「戦国大名―九州の群雄とアジアの波濤―」
2015年4月21日(火)～5月31日(日)

ご利用案内

【開館時間】 9:30～17:00

*特別展覧会期間中は9:30～18:00、金曜日は20:00まで開館

*入館は各閉館の30分前まで

【観覧料】 一般 520円(410円) 大学生 260円(210円)

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料です(年齢のわかるものをご提示ください)。

* () 内は団体20名以上

*特別展覧会については、別料金となります。

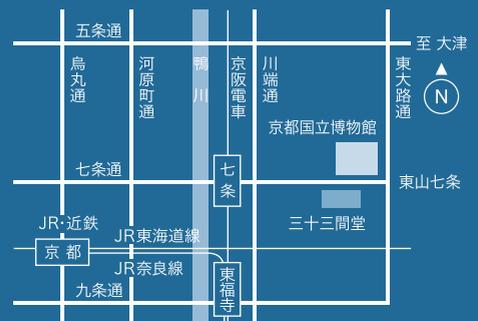
【休館日】 月曜日

*月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館
ただし、5月4日は開館

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館・三十三間堂前下車すぐ
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分
近鉄電車=丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分
京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車=河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は92円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町 527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <http://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2015年4月1日 デザイン 谷なつ子
編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社 大伸社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM